（社）日本ライフストーリー研究所　　2022/07/09　第 29 号

JLSR ニュースレター

記憶の物語化にみる相互行為性

島田　環

『遠い記憶』

母の父、つまり私の祖父は、日本統治下の台湾に育った。父親が台湾の製糖会社に勤めており、そのひとり息子として高雄という台湾島南部の街に生まれ、台北大学を卒業するころにはもう戦況は激しくなっており、もれなく祖父も徴兵された。

＊

本籍のあった熊本での入隊のため、まだ見ぬ「母国」へ帰る日、製糖工場で別れようとしたのだが、どうしても台南まで送りたいと言う父母に押しきられ、台南の街ではせがまれて「最後の写真」を撮った。

それから、行き交う人波でごった返す台南の街をみな黙りこくってあてどもなく歩いた。通りかかった停車場で、ちょうど動き始めたバスのステップにひらり飛び乗ると、バスガールの後ろから、呆気に取られる両親に大きく手を振った。おそらく互いに今生の別れとも覚悟しており、どうしてもしんみりするのがやりきれなかったのだ。(1)

＊

入隊後、配属されたのは飛行第六十四戦隊、通称「加藤隼戦闘隊」。数々の感状を授与され、南方作戦でも華々しい戦果を挙げてきたエリート部隊だ。初戦はビルマの戦い。一時は日本軍がビルマ全土を制圧したものの、連合軍の抵抗もきびしく、終戦まで激戦が繰り広げられた地である。

そして昭和 20 年 8 月、終戦はインドネシアで迎えた。4 年での帰国を目途になんとか生き延びろと命じられ、小さな鉈ひとつでジャングルを切り拓き、小舎を建てて農耕し、ときに野豚を屠殺するなどして自活する中、1 年後の 8 月に突如、帰国できることとなった。「帰る」先は、当然、生まれ育った台湾ではなく日本本土だ。(2)

祖父が戦死せずに済んだのは、飛行部隊ではありながらも地上勤務だったからだ。あるいは、マラリアや赤痢、デング熱などの風土病、飢餓、自決……そのどれでも死ななかったから生きていた。亡くなった戦友たちとの差は運だけだった。

＊

祖父は、日本に帰還すると、同僚の妹と結婚した。

彼女は夫の母親、つまり私の曾祖母から「肉ちまき」の作り方を教わった。曾祖母は、高雄の「現地の人」から教わったという。

やがて、祖母はそれを私の母に教えた。

母は年に数度、家族のために肉ちまきを拵えた。

前の晩、大きなボールに糯米を浸水させてある。肉ちまきだ！ 翌日、学校から帰るころには竹の皮に包まれて次々に蒸されている。台所に満ちる豚の脂の薫り、シュンシュンあがる白い湯気。

＊

中学１年の夏、祖父に太平洋戦争についての話を聞いた。それはたしか学校の課題のひとつだった。

「勝利を目指すことを当たり前のように考えていた。そういうふうに考えるようになっていった。連合軍のＡＢＣＤラインなどの圧力に対して、何とかしなければならぬという思想が培われていた」

祖父は私の眼を見ながら静かに話した。私はその告白に何も言えず、祖父がメモ紙に描いた太平洋の地図に目を落とした。冷房の効きすぎた市民会館のロビーで、時間だけが過ぎていった。

＊

戦後、祖父は農業指導を主な仕事として、長く海外で働いた。インドネシア、フィリピン、マレーシアなど東南アジアの国々や、ブラジルやメキシコなど中南米にも駐在した。

マレーシアで祖母は親を亡くした仔虎を飼った。少し大きくなったらじゃれついて噛むようになったので、動物園だか研究施設だかに預けた。

「虎は小さくても虎なのね」

一方、私は大学へ進み、アジアを中心に、文化人類学や宗教学、歴史、経済地理など広く学んだ。東南アジアへも旅し、フィリピン、台湾、ベトナム、タイ、ラオス……やがて戦時中には日本統治下にあり、南洋群島と呼ばれたミクロネシアの島々へと至り、それらの土地の老人たちから戦争の話を聞いた。

椰子、スコール、更紗、檳榔樹。しばしば旅先から祖父に絵葉書を送った。

＊

20 代半ばに結婚して家を出た。子供が生まれ、慌ただしい日々がいくらか落ち着くと、私は肉ちまきを作ってみたくなり、母に教えを乞うた。

そのころ、祖父は 80 代後半にさしかかっていた。もう一度戦争の話を聞いておきたいという思いが強くなり、母を通じて祖父に打診した。返ってきたのは、「辛いからもう思い出したくない」という言葉だった。

かつて語ってくれた時、祖父はどんな心持ちだったろうか。話したくない記憶をひらいてくれたのだろうか。

市民会館の冷えきったロビーを思い出す。13 歳の夏。一度だけの、祖父の戦争の話。言いきれないたくさんのことがあると私は知っていた。(3)

語りの扉はいつでも開くわけではない。

＊

戦時中の日本の植民地下で、統治する側の日本人と統治される側の「現地の人」のあいだに肉ちまきがあった。どんなふうだか分からないけれど、たしかにあった。

祖父は、行ったことのない祖国のために命を懸けて戦い、傷ついた。(4)

祖母と母と私は、行ったことのない高雄の料理を順繰りに引き継いできた。

今、私は年に幾度か、肉ちまきを拵える。

（2021 年 9 月 4 日　制作・縞玉舎）

私は時折、地域のイベントなどで肉粽に上記の文章を添えて売っている。蒸篭で粽を温める5分ほどの間に読んでください、と。4月の研究会の折、桜井先生と事務局の大谷さんに粽と『遠い記憶』を差しあげたところ、寄稿を勧められた。この文章をライフストーリー研究の視点からはどう読めるか、稚拙ながらも考えてみた。

このストーリーは「私が事実と認識している事柄」「私が祖父から聞いた話」「母が祖父から聞いた話」「私が祖母から聞いた話」「私の想像・創作」「祖父が社友会誌に寄稿した文章」から成る。それらは明確に切り分けられてはおらず、いくつかが組み合わさったり混ざり合ったりもしている。

また、同じようなカテゴリでも表現の仕方には違いがある。たとえば、同じ「私の想像」であっても、(1)では「おそらく」と想像であることを明らかにし、(4)では祖父の心情に関することを「傷ついた」と言いきることにした。(3)も想像ではあるが「あることを知っていた」と言いきった。それは「……だそうだ」「……だろう」という表現の多用は読みづらくなるから避けたいという理由もあったが、もし祖父が生きていて確認をとったとしても、私が「傷ついたか？」という問うこと自体が、祖父の語りに強く関与すると感じたからだ。

(2)は、2021 年9月の私だからこそ入れた一文である。近年、私はアイデンティティクライシスに関心があり、世界の様々な問題にそれが関わっていることを知ってもらう一助になればと思い、粽にこの文章を添えるようにした。だから、私にとって(2)は外せない一文である。

また、2回の問いかけへの対応の違いは、祖父自身の年齢や状況などのほか、13 歳の孫娘から学校の課題として問いかけられることと、30 歳の孫娘から自身の関心として問いかけられることとの違いが影響したのかもしれない。

この、いつ／誰に／どう問いかけられるか、聞き手側のテーマは何か、などの条件も含め、「話し手と聞き手との相互行為によってライフストーリーは生み出される」ということを、私は常々ライターの仕事のなかで感じており、インタビューの最中はもちろん、最初に取材を打診する時から、その点には慎重に気を遣っている。それゆえにライフストーリー研究に関心をもった際、対話的構築主義アプローチが最も腑に落ち、JLSR 研究会への参加に至った。しかし、拙文をライフストーリー研究の視点から捉えてみることは思いもよらず、新鮮な経験であった。私が表現を選択する際に仮定の対話(「もし祖父が生きていたら」)を試みていたこと、テーマがアイデンティティクライシスであること、私の祖父への2回の問いかけが祖父にとって違った意味をもっていた可能性などは、このたび得た気づきである。深謝。

(しまだ・たまき　ライター)

2022 年度総会報告（第 8 回）

2022 年 6 月 5 日に、2022 年度総会が行われ、以下の議案が異議なく承認されました。

第 8 回総会議事録(要約)

【日時】2022 年 6 月 5 日(日)13:30～15:30
【場所】(社)日本ライフストーリー研究所
【参加人数】リアル/オンライン/委任状　99 名

１．　開会の挨拶(桜井)
２．　議長に桜井厚を選出
３．　議題

(第 1 号議案) 2021 年度事業・活動報告

・会員の入退会を承認:会員数(2022 年 3 月末日)149 名
・文献資料の整理、収集
・研究会・講習会:LS 研定例研究会 5 回、夏期研究会、『語りの地平』6 号合評会。講習会 3 回開催。
・発刊・発行:ニュースレターno.24～27。『語りの地平』6 号。
・施設利用(宿泊 1 名、文献貸出 2 名、研究相談 13 回)
以上、報告され、承認された。

(第 2 号議案)2021 年度決算報告

(1)収入の部

項　　目	2021 年度決算	2021 年度予算	比較増減
会　費	708,000 円	633,000 円	75,000 円
寄付金・カンパ	44,000 円	9,995 円	34,005 円
利　子	5 円	5 円	0 円
研究誌販売	125,980 円	100,000 円	25,980 円
講習会	252,763 円	200,000 円	52,763 円
研究相談	65,000 円	40,000 円	25,000 円
合　計	1,195,748 円	983,000 円	212,748 円

(2)支出の部

項　目	2021 年度決算	2021 年度予算	比較増減
総会費	3,610 円	5,000 円	1,390 円
文献資料購入費	3,850 円	10,000 円	6,150 円
研究誌作成費	400,000 円	400,000 円	0 円
研究会開催費	5,437 円	15,000 円	9,563 円
交流会開催費	0 円	5,000 円	5,000 円
事務用品費	25,739 円	40,000 円	14,261 円
web通信管理費	43,010 円	43,010 円	0 円
通信費	106,510 円	80,000 円	△26,510 円
研究所消耗品費	72,197 円	23,000 円	△49,197 円
研究所管理費	269,006 円	70,000 円	△199,006 円

研究所維持費	187,443 円	170,000 円	△17,443 円
会議費	91,700 円	90,000 円	△1,700 円
年会費	3,000 円	5,100 円	2,100 円
税　金	21,000 円	21,000 円	0 円
予備費	0 円	5,890 円	5,890 円
合　計	1,232,502 円	983,000 円	△249,502 円

《収支について》

収入合計 1,195,748 円－支出合計 1,232,502 円=△36,754 円

＊赤字分は代表理事からの寄付金にて補填

2021 年度の決算と会計監査報告（監査委員：田中政明、杉座秀親）が行われ、承認された。

（第 3 号議案）2022 年度事業・活動計画

・会員の拡大
・文献・資料の整理、収集：ライフヒストリー、ライフストーリー関係の文献の整理とともに各地の関連調査資料を収集。
・ホームページと Facebook の充実と活用。
・ライフストーリー研究会の位置づけと今後の研究会予定：研究誌『語りの地平』の位置づけや、会員の多様性を鑑みながら、ライフストーリー研究会の今後の方向性に関する検討を開始。
・研究会・講習会の開催：夏期研究集会（第 8 回大会）は 8 月 28 日（日）に開催予定。講習会は 3 回（入門編：7 月、実践編：11 月、分析・解釈編：3 月）開催予定。特別研究会（シンポジウム：日本語教育×ライフストーリー＝？）を 7 月 30 日（土）に開催。学習交流会の開催を促進。
・発行・発刊：ニュースレター28 号～31 号の発行、『語りの地平――ライフストーリー研究』第 7 号の刊行。
・研究相談の実施
・委託事業：證大寺（東京）のテンプルステイ・プロジェクト。
・研究所における交流会の推進と施設利用の促進：会員交流の企画を募集。文献利用の促進。

以上の計画が承認された。

（第 4 号議案）2022 年度予算

(1)収入の部

項　　目	2022 年度予算	2021 年度予算	比較増減
会　費	670,000 円	633,000 円	37,000 円
寄付金・カンパ	9,995 円	9,995 円	0 円
利　子	5 円	5 円	0 円
研究誌販売	110,000 円	100,000 円	10,000 円
講習会	220,000 円	200,000 円	20,000 円
研究相談	40,000 円	40,000 円	0 円
合　計	1,050,000 円	983,000 円	67,000 円

(2)支出の部

項　　目	2022 年度予算	2021 年度予算	比較増減
総会費	5,000 円	5,000 円	0 円
文献資料購入費	5,000 円	10,000 円	△5,000 円
研究誌作成費	400,000 円	400,000 円	0 円
研究会開催費	15,000 円	15,000 円	0 円
交流会開催費	5,000 円	5,000 円	0 円
事務用品費	50,000 円	40,000 円	10,000 円
Web 通信管理費	43,010 円	43,010 円	0 円
通信費	90,000 円	80,000 円	10,000 円
研究所消耗品費	27,000 円	23,000 円	4,000 円
研究所管理費	100,000 円	70,000 円	30,000 円
研究所維持費	160,000 円	170,000 円	△10,000 円
会議費	120,000 円	90,000 円	30,000 円
年会費	5,100 円	5,100 円	0 円
税　金	21,000 円	21,000 円	0 円
予備費	3,890 円	5,890 円	△2,000 円
合　計	1,050,000 円	983,000 円	67,000 円

以上、2022 年度予算案が提案され、承認された。

（第 5 号議案）役員の改選

理事（代表理事）の任期満了に伴い、出席社員の互選の結果、理事（代表理事）　櫻井厚の重任が可決された。

会員エッセイ

語られなかったことのトランスクリプト

矢野　泉

インタビューが終わった日は頭を冷やしてからトランスクリプトに取り掛かろうと、翌日に持ち越す、翌日もまだ冷却できていない場合、数日経過することがある。実際取り掛かってみると、意外に録音状態に波があり、

どうしても聞き取れない音も出てくる。なんども再生してみては傾聴するが、聞き取れない。適当に文字を入れられないので、「聞き取れなかった」という記号を付しておく。トランスクリプトが完成して、「聞き取れなかった」という記号が散見されるとやはりそこの箇所が気になり、あれこれと思いめぐらす。文字の背景を書く場合は、自然音がどれだけ記憶に残っているかが勝負。その自然音が明確には語られなかった語りの黙示的意味があるとき突然、降りてくることがある。語られた声のトランスクリプションはもとりより大切だが、語られなかったことのトランスクリプションはなおも意義がある。語られなかったことのトランスクリプトは、インタビューのあと恐ろしいほどの歳月をかけて、インフォーマントの語りだしを、あてどもなく待つことにこそある。

初めてのライフストーリー法の講義

伊藤　文子

私は、大学で看護教育に携わっていることから、先日授業のなかでライフストーリー法を伝える機会を得た。

対象は大学３年生である。研究方法論という必修の授業であることもあり、科目開始時は、「論文は長くてどこを読めば良いかわからない」、「論文を読むだけで眠くなってしまう」、「研究は難しすぎてやる気にならない」など、研究という言葉に強い抵抗感を示していた。しかし、学生たちの研究への抵抗感や嫌悪感は、授業を重ねるたびにいつしか興味関心へと変化していった。

ライフストーリー法についての授業を行い、「ライフストーリー法は、社会的事実だけにとらわれず、対話から得た個人のライフに焦点を合わせ、その人の生活世界を中心に、社会や文化の諸相の変動を読み解くことを目的としている方法」であることを自分の研究過程も踏まえながら紹介すると、学生らは「患者さんの思いの真意に近づける方法論ならやってみたい」など意外にも意欲的であった。そして、各自の患者理解への方法を想起しはじめ、「自分がライフストーリー法で研究をしたら、患者さんの本音がわかるかな、でもインタビューは、人が見つかれば簡単だと思っていたけど、質問の仕方でもいろいろ気をつけることがあるし、簡単ではないんだな」等、自分自身に添わせて研究を理解しようという姿勢が見られていた。

他の質的研究方法論に交えて行ったこともあり、約20 分ほどの大変短い時間ながらも、学生自身が想起しやすいテーマであったことも功を奏したのか、トランスクリプトを読み、そこから物語世界やストーリー領域の区分をするワークを強行的に実施したところ、わからないといいながらも一生懸命に取り組んでいた。また、このような経験を通し、学生から以下のような質問や感想があがったので、以下に原文のまま記載する。

- ライフストーリー法でのインタビューについてすごく興味を持った。トランスクリプトの作成や読み取りは大変だと思いましたが、当事者の語りからいろいろな発見があることについて興味深いと思いました。
- ライフストーリー法は、看護のアセスメントに少し似ていると思った。
- ライフストーリー法について学び、個人のライフに焦点をあてるため、解釈を進めていくほど、患者さんの経験や思い、物事の捉え方を深く知れると感じました。
- 質的研究法の研究デザインのなかに、ライフストーリー法があって、ストーリーの内容からその人の思いを抽出し、新しい視点を見つけることで、最初の視点以上の色々な見方ができると感じ良いなと思いました。
- ライフストーリー法は、どのような研究に使われていますか。
- 分析シートでの物語世界やストーリー領域の区別が少し難しいと感じた。

特に、分析に関しての感想は、私がライフストーリー研究に実際取り組んでみてわかったことでもあったので、ものの数分でこの視点に着目したことには驚いた。

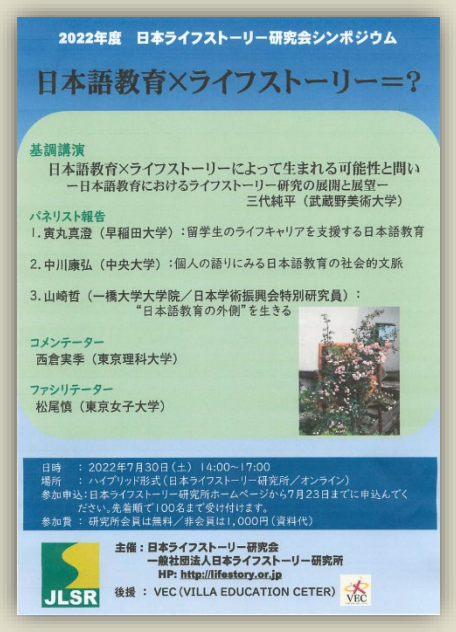
最初は、「研究」というお堅いイメージだけで嫌悪感を示していたが、病を見ずしてその人自身への理解の探究という視点が養われている看護学生において、個人のライフ（人生・生涯・生活・生き方）を読み解くライフストーリー法は魅力的に映ったように思う。また、その日に知ったばかりの目新しい研究方法ながらもそれらに適応しようとする学生の姿勢は、さすが大学生！思考力の柔軟性が高いと感心した。学生の柔軟性に負けじと、自分自身の構えを自覚しながら、自分自身も研究活動にいそしみたいと意欲をもらった授業となった。

学生においては、今後も知識を増やしながら物事を多角的に捉える力を養い、物事を探求する姿勢を大切にしてほしいと願う。

シンポジウム

日本語教育×ライフストーリー＝？

開催のお知らせ



日時：2022 年 7 月 30 日（土） 14:00～17:00
場所：ハイブリッド（日本ライフストーリー研究所／オンライン）

定員：100 名（先着順）

参加申込：日本ライフストーリー研究所ホームページから
お申込みください。
http://lifestory.or.jp/info/sympo202207/
申込締切：**7 月 23 日（土）**

参加費： 研究所会員は無料。非会員は 1，000 円（資料代）
研究所からの受付メール後、記載の振込先へ振込んでください。

プログラム

基調講演：

三代純平（武蔵野美術大学）：日本語教育×ライフストーリーによって生まれる可能性と問い
――日本語教育におけるライフストーリー研究の展開と展望

パネリスト報告：

1. 寅丸真澄（早稲田大学）：留学生のライフキャリアを支援する日本語教育
――ライフストーリーが拡げる言語教育の地平
2. 中川康弘（中央大学）：個人の語りにみる日本語教育の社会的文脈
――寄り添いと自己相対化の先にあるもの
3. 山崎哲（一橋大学大学院　社会学博士後期課程／日本学術振興会特別研究員）：
“日本語教育の外側”を生きる ――モデル・ストーリーを持たない中国帰国者三世の私たちが互いに語り得ること、あるいは語りの共同構築可能性について

コメンテーター： 西倉実季（東京理科大学）

ファシリテーター： 松尾慎（東京女子大学／VEC 代表理事）

第 14 回
ライフストーリー
調査研究講習会
参加者募集!!

☆開催日時：
2022 年 7 月 17 日（日）
10:30～16:40

☆定員：
オンライン参加　20 名
リアル参加　5 名（先着順）
＊今回は、入門編として、これまで講習会に参加したことがない初めて参加の方が対象です。

☆申込：
・7 月 10 日（日）までに、ホームページから申し込んでください。定員に満たない場合、追加募集をします。

☆受講料：
会員：3,500 円　非会員：5, 000 円

・参加者には申込確認のメールを致しますので、その後、参加費の振り込みをお願いします。振込先は以下です。

［ゆうちょ銀行からの振込の場合］
ゆうちょ銀行　通常貯金　記号：10820　番号：10401951　名前：シャ）ニホンライフストーリーケンキュウショ

［他の金融機関からの振込の場合］
店名：〇八八（ゼロハチハチ）　店番：088
預金種目：普通預金　口座番号：1040195
口座名：一般社団法人日本ライフストーリー研究所　［シャ）ニホンライフストーリーケンキュウショ］

☆お問い合わせ
info@lifestory.or.jp へお願いします。

【講習会プログラム（予定）】

Ⅰ（10:30～12:10）
質的研究におけるライフヒストリー、ライフストーリーの特質とその要点

～昼食（12:10～13:00）～
（リアル参加の場合は、食事は持参してください。お茶、コーヒーなどの飲み物はあります。）

Ⅱ（13:00～14:40）
インタビューによるライフストーリーの構成とトランスクリプトの作成

Ⅲ（15:00～16:40）
ライフストーリー解釈の糸口と論文のまとめ方

＊関心をお持ちの方にご紹介いただければ幸いです。

ライフストーリー研究会
開催報告

LS 研 6 月例会
・日時：2022 年 6 月 25 日（土）13:30～16:30

・報告者：道前　美佐緒さん（関西学院大学大学院／名古屋文化短期大学）

・報告タイトル：「オリジナルウェディング」現代日本の婚姻儀礼における「家族のストーリー」

・概要：日本の婚姻儀礼の様式は大きく変化し、「オリジナルウェディング」と呼ばれるようになって 20 年が経過した。先行研究では、儀礼様式の多様性は「個性」、単なるカップルの「趣味・嗜好」の表現と捉えているが、ここで、儀礼当事者が考える「個性」や儀礼の意味づけをライフストーリーによって明らかにする。

日本ライフストーリー研究会例会の報告者を随時、募っています。

参加者募集!!

日本ライフストーリー研究会

第 8 回
夏期研究集会

開催日
2022 年 8 月 28 日（日）

場所
日本ライフストーリー研究所
（Zoom 同時開催）

夏期研究集会の開催のお知らせです。3 名の報告者を募集中です。一人の報告者の持ち時間は 100 分、報告時間 50 分、質疑応答 50 分となっています。研究所までメールでお申し込みください（7 月末日締切）。3 名になった時点で締め切ります。プログラムは以下のような時間設定です。

午前の部（10:30～12:10）
・第 1 報告
午後の部（13:00～16:30）
・第 2 報告
・第 3 報告

＊確定プログラム・参加者の申し込み方法は、8 月上旬にメールでお知らせします。

新入会員（2022 年 4 月以降、順不同）

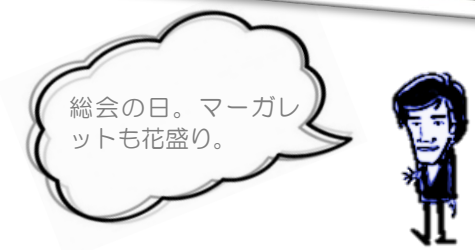
山口真葵（国際医療福祉大学）
山本晋也（周南公立大学）
鈴木繁聡（東京大学大学院生／日本学術振興会特別研究員）
山本友紀（母子生活支援施設支援員）
福島青史（早稲田大学）

受け入れ論文、図書、報告書

2022 年 4 月 11 日～7 月 8 日（下線は会員）

論文、報告書、著書などをお送りください

・好井裕明，2022「くまさんのシネマめぐり　二人のジョゼと恒夫」『支援』vol.12
・小倉康嗣「ライフストーリー研究のリアル――それはどんな現実をとらえるのか」『N：ナラティヴとケア』第 13 号.
・桜井厚，2022「招待論文　対話としてのライフストーリー・インタビュー」『Human Linguistics Review』第 6 号
・渡邊登,2022『再生可能エネルギーによる持続可能なコミュニティへの市民の挑戦』新潟日報事業社.
・三木健編，2022『民衆史の狼火を　追悼色川大吉』不二出版.
・『かたこと』vol.10(2022)　一般社団法人水俣病を語り継ぐ会.



（社）日本ライフストーリー研究所
〒408-0032 山梨県北杜市長坂町大井ケ森 1176-489
E-mail: info@lifestory.or.jp　HP: http://lifestory.or.jp